

「れんけいレポート」

～地域連携室報告～

発行：河内長野市医師会 (TEL 0721-54-1700)

平成 29 (2017) 年 2 月・第 16 号

■<案内> **在宅サロン**：3月4日(土)午後2時～4時予定(於・河内長野市医師会館)。

今回はパーキンソン病にスポットをあて、講師は近畿大学医学部の三井良之先生(総合医学教育研修センター教授)。出席希望の場合は地域連携室迄ご連絡を！

☆現在河内長野市ブルーカードシステム(休日夜間病状急変時対応システム)が稼働中。現況は次の通り。かかりつけの患者さんに、「ブルーカード」を発行するには、「登録医」の申込みが必要。随時「登録医」の登録申込みを受付中。詳細は地域連携室迄ご連絡を！

※登録医：31名(登録医療機関：25機関)、「ブルーカード」発行：8件、「ブルーカード」不受理：2件、「ブルーカード」発動：0件、「ブルーカード」未発動入院：1件

☆多職種連携推進のための「河内長野市れんけいエチケット集」を刊行(先月1冊配布済)。追加希望の場合は地域連携室迄ご連絡を！なお、医師会ホームページ(地域連携室⇒エチケット集)から、PDF版のダウンロードも可能となっている。

◎「れんけいカフェ」：第3回・1月18日(水)開催(於・河内長野市医師会地域連携室)。参加17名。

「サービス担当者会議ガイドライン」の編集会議として開催。他に、河内長野市地域ケア会議広報紙「多職種連携マガジン」(仮称)の発行企図の説明等。「河内長野市れんけいエチケット集」は順次配布中(上記)。次回は3月8日(水)の予定。

◇河内長野市「ケアネットワーク会議ケアマネ部会」：1月26日(木)開催(於・河内長野市役所)

地域のケアマネジャー諸氏あてに、「河内長野市れんけいエチケット集」を配布し、その発行趣旨、内容、「かわちながの連携シート」(エチケット集17・18頁参照)の使い方等をアナウンス。

◇河内長野市「地域ケア会議」：1月24日(火)開催(於・河内長野市医師会地域連携室)

認知症施策検討、いきいきフェスタ検討、ブルーカードシステム推進の3委員会の活動報告、河内長野市社会福祉協議会からは、高齢者生活支援体制整備事業の内容説明が各々行われた。地域連携室からは、「れんけいカフェ」の開催状況(3回)や「サービス担当者会議ガイドライン」(次頁)の編集状況の報告と「れんけいマスター制度」(仮称・次頁)導入の趣旨説明を行った。河内長野市薬剤師会からは、昨秋行われた残薬調整調査の結果報告があり、薬剤師の関与(調整)に効果ありとした。次回は3月28日(火)の予定。なお、今回河内長野市議会の方から、浦山宣之議員が傍聴。

◇河内長野市地域ケア会議認知症施策検討委員会：1月30日(月)開催(於・河内長野市医師会地域連携室)

チーム員会議(昨年10月以降4回開催)における事例検討状況はじめ「河内長野市おれんじチーム」の活動状況について報告、意見交換。アセスメント用紙について検討等。

□認知症を理解するための研修会「レビー小体型認知症とは？～症状の特徴と映像から考える～」：12月24日(土)開催(於・大阪市社会福祉研修・情報センター5階大会議室、大阪市西成区出城2-5-20)

中西亜紀大阪市立弘済院附属病院副院長の講演、事例紹介等があった。その中で、特に治療に

については、「病状が変化しやすいので、こまめな投薬調整が必要」との説明があり、他の認知症との相違が強調された。現在レビー小体型認知症でも、アリセプトは保険適用になっているとの報告。

□大阪市立弘済院附属病院市民公開講座「手術で治せる認知症があります」：1月19日(木)開催

(於・大阪市立弘済院寿楽館、吹田市古江台6-2-1)

大畑建治大阪市立大学大学院医学研究科長・脳神経外科学教授から、手術で治せる認知症、即ち、①正常圧水頭症、②慢性硬膜下血腫、③脳腫瘍、④側頭葉てんかん、⑤脳腫瘍の症状等に関する講演があり、MRI検査の有用性を説いた。この中で大畑先生は、出席者に対して「少しでも医療知識を持って帰ってほしい。知識があれば、家族同士の確認ということも出来、有意義」と強調。

□講演会「身寄りのいない高齢者への支援」：1月20日(金)開催(於・大阪市社会福祉研修・情報センタ

ー5階大会議室、大阪市西成区出城2-5-20)

久岡英樹弁護士(大阪弁護士会高齢者・障害者総合支援センター委員)から、身寄りのいない高齢者への支援に関する講演があり、高齢者の動態、成年後見制度、住居、医療同意、相続・財産管理、個人情報取扱い、個人の尊厳等について問題点を指摘し、夫々対応策を伝授。今後の地域における支援として、地域ケア会議の活用と意思尊重型支援の重要性を説いた。

◇河内長野市との懇談：1月23日(月)に保健福祉部の担当者と喫緊課題について協議。昨年12月2日(金)、1月17日(火)、浦山宣之市議会議員が来室し、「ブルーカードシステム」の運用はじめ医療介護福祉問題について意見交換等。

☆【Topics】

○「エチケット集」：神奈川県横須賀市版が元祖で、それには「異なる職種が連携するときに、お互いの立場を理解し、思いやりをもって行動することが、相互の信頼関係を深め、気持ちよく仕事をするにつながる。このエチケット集は、多職種が連携する際に、気をつけたいエチケットを文章化してまとめたもの」とあり、相手を不快にさせないためのエチケット、気配り、礼儀の重要性が説かれている。本市でも多職種連携の意思疎通を図る際の糧とすべく、独自版を今般刊行した。

○「サービス担当者会議」：介護保険におけるケアマネジメントのケアマネジャー業務において、サービス担当者会議がある。会議は、本人(家族)、医師、看護師はじめ関係者が参加し、ケアプランの確定やサービス内容の共有が図られる場として、極めて重要なものとなっている。新潟県上越医師会では、医師とケアマネジャーとの連携の重要性に鑑み、ケアマネジャーが会議を開催しやすくするためにガイドラインを刊行。河内長野市地域ケア会議でも、本書の精神をベースに、独自版のガイドラインを現在鋭意編集中である。

○「れんけいマスター制度」(仮称)：河内長野市民大学「くろまる塾」や日本医師会かかりつけ医機能研修制度に倣って、自己研修の単位制の導入を目指すもの。そのうち「くろまる塾」の「学びの場が、出会いの場へ。出会いの場が人づくりの場へ。人づくりの場が、まちづくりの場につながります」という趣旨を取り入れ、研修等の機会を通じて、有機的な多職種連携の推進、研修等の参加者増(活性化)を目指していきたいと考える。今後、河内長野市地域ケア会議で、具体的な内容を詰めていく予定。

☆河内長野市医師会地域連携室 <TEL:54-1700 FAX:54-1567>

<メールアドレス:chiikirenkei4@kawachinagano-ishikai.com>